

御意見及びその対応について（参考資料 2）

① R3.5.6送付資料に係る委員御意見への今後の対応について

該当箇所	御意見	今後の対応
全般	全体像（ウェディングケーキモデル、施策体系（長期的な目標－施策展開の基本的な考え方－施策の方向））が入るといい。	第2章の2「SDG s」への対応にウェディングケーキモデルについて追記するとともに、第5章に計画の全体像を記載しました。
全般	長期目標の2「安心、安全で、生物多様性に富んだ自然共生社会づくり」とあるが、2つのこと「（公害・災害防止）＋（生物多様性、自然育成）」が混じった表現であり、意味を読み込みづらい。	公害のない安心、安全な身近な生活環境が確保されることで、人にとっても自然にとっても暮らしやすい環境となり、その上に生物の多様性が確保されることで、人と自然が共生する社会が実現することが伝わるような表現にしました。
全般	p 8. L20:「環境、経済、社会が統合的に向上し」の意味がわかりにくいです。	前段の文章を見直し、「環境、経済、社会の諸課題の同時解決が図られ、」と修正しました。
全般	"環境が支えるSDGsの達成"は「」で囲むとよい。また、"環境が進めるSDG s の達成"という表現があるとよい。今後の議論の中で、よりよい表現になることを期待している。	「」で囲むとともに、よりよい表現となるよう、今後検討を進めていきます。
全般	施策指標は過去の数値を踏まえて、指標が妥当か検討したい。	第3回小委員会資料（参考資料1）には指標の現状値と目標値を記入しました。
全般	主な取組名は可能な範囲で、一般の方にもわかるような表記、短くするなどもっと簡略化した方がよい。 ・一般の方に難しいものの例：“非化石証書”の活用による再生可能エネルギーの地産地消 →取組の説明にも記載があるので、例示をとる？ ・名称が長い例：下水汚泥を活用したガス発電や廃熱利用など廃棄物の持つエネルギーの活用、バイオマスなど地域資源の有効活用 →例示をとる？	現時点で簡略化できると思われるものについては簡略化を図りました。 今後さらに簡略化に努めます。 「非化石証書」は一般化しており、そのまま使用させていただき、巻末の用語集で説明します。 ・下水汚泥を活用したガス発電や廃熱利用など廃棄物の持つエネルギーの活用、バイオマスなど地域資源の有効活用 →下水汚泥の活用、一般廃棄物処理施設の熱回収の促進、バイオマスの利用促進
全般	カーボンニュートラル、オフセット、レジリエンスなどカタカナが多い。 （県で一般的に使用していないカタカナは、言い換えられないか）	他の用語で代替が難しいもの、県で一般的に使用しているものについてはそのままの記載としますが、巻末に用語集を掲載します。カーボンニュートラル、オフセット、レジリエンスについては他での使用しており、そのまま記載したいと考えています。
1 気候変動対策の推進	国の新たな温室効果ガス削減目標の達成に向けて、県として現状の目標設定型排出量取引制度だけについて、制度・広報いずれも現状維持のように見える。将来の動向にあわせて、県の温暖化対策全体の見直しを図ることはできないか。	目標設定型排出量取引制度については、計画期間ごと（5年ごと）に大幅な制度を見直しを行っており、目標削減率を段階的に引き上げている他、第3計画期間（令和2～6年度）からは低炭素電力を利用した場合に削減量を算定できる仕組みを導入し、再生可能エネルギーの普及にも資するものとなりました。今後は、第4計画期間（令和7年度～）に向け、県としての削減目標も踏まえ、引き続き制度の見直しを検討していきます。県民への広報についても、第2計画期間（平成27～令和元年度）までの取りまとめ公表時など、機会を捉えて周知に努めていきます。
1 気候変動対策の推進	「新たに設置される太陽光発電施設は地域と共生しています」とあるが、実現の方法が難しい。	国は、R2年度から新たに認定を取得する小規模太陽光（10～50kW）には、自家消費率30%以上、かつ災害時に活用できる設備の設置を条件にするなど地域に密着した事業を求めています。県としては、改正FIT法の枠組の中でさらに適正に地域への配慮がなされるよう国に働きかけていきたいと考えます。 温暖化対策法改正の柱の一つに脱炭素化促進区域の設定があり、地域と共生した太陽光発電の設置を目指しています。 そうした動きと連携しつつ、地元自治体や地域住民の理解が得られた形での再生可能エネルギーの適正な普及を目指していきます。
1 気候変動対策の推進	p 15 気候変動対策の分野では、再エネ普及は重要な政策の1つであり、埼玉県においても新規施策があることから、「再生可能エネルギー普及率（又は創エネ量）」や「彩の国ふるさとでんき活用量」など、何かひとつ関連の新規指標があつて良いと思います。	新たな指標の設定については、県の地球温暖化対策実行計画と合わせて検討してまいります。
2 資源の有効利用の推進	p 17 プラスチック対策も今回力を入れている施策ということですから、指標をひとつたててはいいでしょうか。	プラスチック対策として、プラスチックのリサイクル推進に取り組めます。リサイクルが進むと再生利用率の向上が見込まれるため、プラスチックを含めた全ての一般廃棄物の再生利用率を向上させることを指標として取組を推進します。
4 みどりの保全と創出	施策の方向4の取組「園庭などの芝生化」に在来種の保護が入るとよいのでは。	御意見を踏まえて、今後とも検討していきます。
4 みどりの保全と創出 5 生物多様性の保全	昨年度第2回小委員会の御意見「地域性が読み取れない」について、例えば県西部は自然保護、中央部は在来種保全、低地部は都市の緑化推進・都市部のグリーンインフラなどを記載すればよいのではないかと。	「施策の方向4 みどりの保全と創出」で現状と課題に「里山やまちなかの身近な緑がそれぞれの特徴を生かしながら保全・活用される」といった文章を、「施策の方向5 生物多様性の保全」で「多様な地域環境に応じた生物多様性の保全」に取り組む旨を加筆しました。
4 みどりの保全と創出 5 生物多様性の保全	施策の方向4、5に山地、里山、都市の地域性を踏まえて取組名、内容の記載ができるとよいのではないかと。	特別緑地保全地区、公有地化、景観地指定は台地・丘陵地、低地に該当する緑地・樹林地が広く点在し、地域性を特定するのは困難ですが、見沼田圃や三富地域については地域で取り組んでいる取組として記載しています。

御意見及びその対応について（参考資料 2）

該当箇所	御意見	今後の対応
5 生物多様性の保全	施策指標が1つ「生物多様性の認知度」のみなのは寂しい。 「希少生物の種類」、「サポーター件数」、「サポーターの活動回数」など何か考えられないか。	生物多様性の保全を達成するための取組は「埼玉県生物多様性保全戦略」において示されており、その取組は多岐にわたります。これらの取組の総括的な目標として、認知度を設定するものであり、個別の取組の成果だけでは、生物多様性の保全という大きな目標の達成に繋がりにくいと考えています。
6 恵み豊かな川との共生と水環境の保全	「NEXT川の再生」この名称でよいのか、より判りやすい名称にした方がよいのではないか。取組概要を見ても出てこず、どのようなことなのか判らない。	「豊かな水と緑を育む河川環境の整備」に修正します。
7 安全な大気環境と身近な生活環境の保全	施策指標に「環境大気中の石綿濃度 1 本/L以下の維持」とあるが、既に達成されているし、当然確保されなければならないものである。建物解体時に飛散がないかの方が関心があるのではないか。解体現場の対策がきちんと取られているかを確認する指標の方が良いのではないか。	建築物の解体等現場で飛散が無い事を確認する指標に変更します。
9 地域資源の活用や交流・連携による地域づくり・人づくり	施策の方向9「地域資源の活用と交流・連携による地域づくり・人づくり」の名称であると、地域資源を活用した取組により、地域・人がつくられると読み込みづらい。	「地域資源の活用や交流・連携による地域づくり・人づくり」に修正しました。
9 地域資源の活用や交流・連携による地域づくり・人づくり	p 3 3 SDGsの県内の企業の取組状況を測るのであれば、セミナー参加数よりも、埼玉県が立ち上げた制度に基づく「埼玉県SDGsパートナー登録社数」の方がよろしいのではないのでしょうか。	環境基本計画では、SDGsの3側面でも特に環境面に注目して記載していきたいと考えていること、まずはSDGsに関心を持っていただくことから取組が始まると考えていることから、環境SDGs関連セミナー参加者数を指標にしたいと考えています。

② 第2回環境基本計画小委員会での意見への今後の対応について

該当箇所	御意見	今後の対応
全般	「脱炭素・循環型・自然共生」社会の実現に向けて進んでいくという考え方を分かりやすく県民に打ち出していくことが重要であるため、第3章に「自然共生社会」といった文言が入るとよい。	長期的な目標2の説明文に「自然と共生し」という表現を新たに加えました。また、No.2のとおり長期的な目標を修正します。
全般	長期目標2の説明に加えるだけでなく、目標そのものに「生物多様性」のキーワードを入れてほしい。	長期的な目標2を「安心、安全な生活環境と生物の多様性が確保された自然共生社会づくり」に修正します。
全般	長期的な目標が非常にぼんやりしていて、拾ってくるような形で施策を見つけるというのは、あまりよろしくないのではないかなと思う。横断的な取組をすべきであるから長期的な目標を取りまとめていると思うので、もう少し長期的な目標の具体像が分かるような施策の取りまとめができるといいのではないかなと、特に2番は思う。	御意見の趣旨を踏まえた記載ができるよう、検討していきます。
全般	恵み豊かな川に関しても今のような御指摘が当たるところがあるかと思う。ぜひ長期的な目標をまず分かりやすく示すというか、遠い目標がちゃんとあって、それにどういったことがしていけるかというところを記述いただければというような御指摘かと思う。	御意見の趣旨を踏まえた記載ができるよう、検討していきます。
全般	長期的な目標は幅広い言葉であり、政策のカテゴリー分類のような感じがする。今後5年間の施策の重点の打出しは、長期目標ではなく施策の方向で示すとよいのではないか。	御意見を今後の検討に生かしてまいります。
全般	将来像の書きぶりが一般的でありわかりにくい。2030年はSDGsの達成年ということもあるので、より具体的に記せるのでは。指標の議論とも関わってくるが、数字で示せるところは数字を入れてほしい。または、具体的な目標は指標で示し、将来像は現在案のような形でよい。	具体的な目標は指標で示すこととします。将来像については、より具体的に記載できるか検討します。
全般	それぞれの施策の方向ごとに、SDGsの17の目標のどの項目に該当するか記載すべき。	今後の資料作成の中で、具体的に記載します。
1 気候変動対策の推進	目標設定型排出量取引制度について、PDCAの視点で、この間の実態・評価・問題点・今後広げていく場合の課題は何か。	制度上の課題のその対応について、取組の遅れている中小企業へのフォローを続けるほか、新たな課題が生じた場合は適切に拾い上げ、第4計画期間の制度設計につなげていきます。 また、引き続き国内での展開について国への要望を続けるとともに、国におけるカーボンプライシングの議論等を注視しつつ、本県の制度についても検討していきます。

御意見及びその対応について（参考資料 2）

該当箇所	御意見	今後の対応
1 気候変動対策の推進	目標設定型排出量取引制度について、県民に知っていただくことが必要ではないか。	年次公表等の際の周知方法を検討するとともに、当制度で創出されたクレジット等の制度外への利用（イベントにおけるCO2排出のオフセット等）についても事業者働きかけ、制度アピールの場を増やしていきたいと考えています。
1 気候変動対策の推進	レジリエンスの視点から、またSDGsの環境への貢献を自分事として捉える視点から、電力についても市民電力とか地域電力などを市民参加で広げていくことが大事ではないかと思われる。地域新電力は秩父市と所沢市の他にあるか。また、このような地域電力について、県としての受け止め、今後の施策として考えがあるか。	秩父市の秩父新電力株式会社、所沢市の株式会社ところざわ未来電力、それに深谷市でふかやeパワー株式会社という3つの地域新電力会社が電力小売事業を実施しています。 令和2年度には、関東経済産業局と共同し、県内市町村を対象にエネルギー問題等を検討するワークショップを開催しました。災害時のレジリエンス強化を図るため、県民あんしん共同太陽光発電事業を実施し、公益的施設（幼稚園や自治会館など）に太陽光発電施設と蓄電池システムを設置し、CO2の排出削減と災害時の地域の住民への電力提供を行う取組に補助しています。地域新電力は太陽光や廃棄物発電などを活用しており、地域の再生可能エネルギーの推進に貢献した取組となっています。県としては、2050年カーボンニュートラルに向け、このような取組を含め、市町村と連携して再生可能エネルギーの推進に努めていきます。
1 気候変動対策の推進	中小企業を巻き込むためには、もう少しアウトリーチするような形で、ワークショップなどを組み合わせて実施するとよい。	中小企業の経営をトータルサポートしている専門家（金融機関・中小企業診断士・税理士等）と連携し、県の支援メニュー「補助金・制度融資・省エネ診断・エコアップ認証」につなげ、中小企業の省エネ対策を支援していきますので、御意見を今後の検討に生かしてまいります。
1 気候変動対策の推進	将来像の記載が再生可能エネルギーの導入といったハード面中心となっているのが気付き。特に埼玉県の場合、まずは省エネがあって、再生可能エネルギーの利用があるので、見直すべきである。	委員の御意見のとおり、特に家庭部門のCO2排出削減には環境教育等のソフト面の対策が重要なので見直します。
1 気候変動対策の推進	取組「使用エネルギーの非化石価値化の推進」がわかりにくい。「非化石証書の活用による再生可能エネルギーの地産地消の推進」がよいのでは。	御意見のとおり修正します。
1 気候変動対策の推進	温室効果ガス排出量について、H25比で26%削減は古い。カーボンニュートラルについては、政府の動きが非常に速いので、もう少し踏み込んで書かなければならない予想が立つので、書き込みができるように検討しておくほうが良い。カーボンニュートラルについて、どこまで書き込めるかは調整が必要だと思うが、「今後更なる努力を求められている」、「2050年カーボンニュートラルを見据え取組を進めていく」など、入れてはどうか。	今後の2050年、カーボンニュートラルに向けた議論の状況を踏まえて、今後記載できるよう検討していきます。
1 気候変動対策の推進	特に、カーボンニュートラルについて政府の動きが早い。自動車に対する対策が進んでいる。国の動向を注視し、検討を進めておく必要がある。	国の動向を注視し、県としての取組を検討していきます。
1 気候変動対策の推進	今後の施策が「気候変動への適応策の推進」でその取組に「気候変動への適応策の推進」があるので、統合的に気候変動への適応策が進められていくのかということをもっと個別の施策を含む形で示せないか。	取組名を修正するとともに、取組名の説明に加えました。
1 気候変動対策の推進	（小委員会後の追加の御意見）25行目「レジリエントの強化」は、「レジリエンスの強化」では。なお、レジリエンスという言葉は、まだ一般に広く使われている用語ではないため、復元力とか回復力などの簡単な日本語にした方がよいのでは。	「レジリエンスの強化」に修正します。
1 気候変動対策の推進	（小委員会後の追加の御意見）26行目「オフセットによる再生可能エネルギーの利用」は、何をオフセットするのか分からない。例えば「温室効果ガスの排出をオフセットする再生可能エネルギーの利用」というような形に記載してどうか。	御意見のとおり修正します。
1 気候変動対策の推進	（小委員会後の追加の御意見）昨年11月に衆参両院で気候非常事態宣言が可決されたことに触れても良いのではないか。昨年6月に環境省から気候危機宣言が表明されたので、「気候変動」は「気候危機」に置き換えた方がよいのではないか。	衆参両院で気候非常事態宣言が可決されたことについては、第2章に追加します。「気候変動」については「気候危機」よりも一般的に使用されているため、現状のままとします。
1 気候変動対策の推進	（小委員会後の追加の御意見）再生可能エネルギーやエネルギーの地産地消についての記載は、ソーラーパネルの林地への設置による自然破壊、トラブルを鑑み、「自然破壊とならない形でエネルギーを確保する」と追記した方がよいのではないか。	将来像で「新たに設置される太陽光発電施設は地域と共生した施設になっています。」と記しています。取組の説明にも記載します。

御意見及びその対応について（参考資料 2）

該当箇所	御意見	今後の対応
2 資源の有効利用の推進	プラスチックごみの一括回収について、プラスチックの 3 R の推進とは別の取組にしたのはなぜか。具体的に実施する予定はあるのか。	新法の法案では、製品の設計からプラスチック廃棄物の処理までに関わるあらゆる主体におけるプラスチック資源循環等の取組（3R）を促進するための措置を講じることとなっています。その中で市町村は、区域内におけるプラスチック使用製品廃棄物の分別収集及び分別収集物の再商品化に必要な措置を講ずるよう努めることとされており、全てのプラスチックを分別して、一括で回収することとなっているため記載したものです。 国が策定した「プラスチック資源循環戦略」の基本原則を踏まえ「3Rの取組や適性な廃棄物処理のほか、海洋流出を防止するための取組など「3R + Renewable（持続可能な資源）」に表現を修正します。
3 廃棄物の適正処理の推進	取組「市町村による持続可能な廃棄物処理の推進」は、県の役割が見えるようにすべき。	県の役割が見えるような取組名にします。 「市町村と連携した持続可能な廃棄物処理の推進」に修正します。
3 廃棄物の適正処理の推進	（小委員会後の追加の御意見）今後の施策「廃棄物処理のレジリエンス及び継続性の強化」は、その3つの主な取組の記載の順が継続性の強化、レジリエンス強化の順で記載されているので、「廃棄物処理の継続性及びレジリエンスの強化」としてはどうか。	御意見を踏まえ、「廃棄物処理の継続性の強化及びレジリエンスの向上」に修正します。
4 みどりの保全と創出	みどり、生物多様性、水の施策の取りまとめ方が、一般的なカテゴライズになっているので、県土（地域性）が見える形にできないか。	御意見の趣旨を踏まえた記載ができるよう、検討していきます。
4 みどりの保全と創出	生物多様性の分野で、地域性がよく読み取れない。例えばハビタットに関する保全の達成度合いであるとか、環境の機能性の高い自然の確保の度合いといったものが、どういったところに入ってくるのかというところが非常に見えにくい。取組はしているけれども、県土としてどう保全できるのかというところがちょっと分かりにくい。恵みのもとになるストックの保全に関する記述が不足している。	御意見の趣旨を踏まえた記載ができるよう、検討していきます。
5 生物多様性の保全	希少種だけでなく、地域在来種の保護について記載した方がよい。	施策の方向 5 (1) を次のように修正します。 このため「埼玉県生物多様性保全戦略」を策定し、多様な地域環境に応じた生物多様性の保全、希少野生生物の保護やニホンジカ等の特定鳥獣の管理、外来生物の防除に取り組んでいます。
5 生物多様性の保全	県希少野生動植物保護条例に基づく新しい保護種の指定などの取組について努力する旨記載した方がよい。	施策の方向 5 (3)(ii) を次のように修正します。 ・希少野生動植物種の保護増殖・調査・普及啓発等の実施
6 恵み豊かな川との共生と水環境の保全	生物多様性という視点で見たときにいい川、恵み豊かな川というときの指標となるようなもの、新しいものがもしできたらすばらしいと思うし、記載されるといいかなと思う。	御意見を踏まえ、水辺空間における生物多様性保全の視点を加え、河川の魚類等の生息状況等についての情報収集・発信、適切な指標の検討を進めます。
6 恵み豊かな川との共生と水環境の保全	水循環については、E c o - D R R や地域循環共生圏と関連している。グリーンインフラもあるし、地域性を踏まえてより具体的に記載できないか。	流域治水関連法の改正に伴い、特別緑地保全地区の指定要件に、雨水を一時的に貯留し又は地下に浸透させることにより浸水の被害を防止する観点が増加される見込みです。今後、改正後の省令等も踏まえ、当該内容について市町村に周知し、制度の活用を促していきます。また、緑化計画届出制度の適切な運用によって緑の創出を図り、緑の持つ雨水貯留を活用していきます。
7 安全な大気環境や身近な生活環境の保全	「大気環境等」の中身が多く、「等」とまとめるには重すぎるので、例えば「大気環境や身近な生活環境の保全」に修正してはどうか。	御意見を踏まえ検討した結果、御意見のとおり修正します。
7 安全な大気環境や身近な生活環境の保全	アスベスト台帳はあるのか。具体的にどうアスベスト対策を進めていくのかが見えない。災害発生時の重要性を踏まえて、アスベスト台帳の整備を検討してほしい。	御意見を踏まえ検討した結果、使用中の建物については建築基準法の特定行政庁が管轄しており、災害発生時にこれら特定行政庁から石綿を使用した建物について情報提供を受けるようになっています。この連携を密にしていきたいと思います。
7 安全な大気環境や身近な生活環境の保全	P M 2. 5 と光化学スモッグで取組を分けているが、原因物質が同じであるため、これらの対策を1つの取組に集約した上で、光化学スモッグの注意喚起とは分けてはどうか。	御意見を踏まえ検討した結果、P M 2. 5 は一年を通じて注意喚起を行う必要があり、対策も異なる場合があることから一つの取組に集約することは難しいため、現状のままとします。
7 安全な大気環境や身近な生活環境の保全	ダイオキシンや放射性物質について、（1）現状と課題に記述がない。	御意見のとおり追記します。

御意見及びその対応について（参考資料2）

該当箇所	御意見	今後の対応
8 経済との好循環と環境科学・技術の振興	<p>SDGsに取り組む企業がビジネス上で得ていくような仕組みづくりを行う上で、長野県の登録制度等の取組を検討いただくとよい。</p> <p>SDGsの企業の取組支援というところで、2段階で登録制度が構築されているということはよいので、その登録数みたいなものもぜひ今後、指標として考えていただくといいのかなと思う。ESG投資という観点では、登録された企業さんが融資を受け入れやすくなるとか、そういった金融機関をぜひ登録制度の中に巻き込んでいくようなプラットフォームづくりというのを今後、御検討いただければと思う。</p>	<p>環境部では環境SDGs取組宣言企業制度を、企画財政部ではSDGsパートナー登録制度を実施していますので、取組内容を記載しました。</p>
8 経済との好循環と環境科学・技術の振興	<p>（小委員会後の追加の御意見）現状と課題の部分で、様々な産業分野がある中で、農林業だけを取り上げるのは不自然ではないか。</p>	<p>関係部局と調整し、記載を追加しました。</p>
9 地域資源の活用と交流・連携による地域づくり	<p>取組「エネルギーが途絶えないまちづくりの推進」については、施策の方向とのつながりがわかるように、また、一見して内容がわかる取組名にすること。</p>	<p>この取組は、知事の公約の中の埼玉版スーパー・シティプロジェクトに関するものです。取組名の表現については、関係各方面と調整し、現時点では「埼玉版スーパー・シティプロジェクトの推進」としています。</p>
取組名	<p>主な取組は全般的に、わかりやすく簡潔に記すべきではないか。例えば、「今後の施策」との重複部分を削除することや、「〇〇など、××」のような例示がかかるものはもっと簡潔にできると思う。また、専門用語の例示がない方がわかりやすい。</p>	<p>一部表現を修正しました。さらに分かりやすい表現にできるか、検討していきます。</p>
取組名	<p>（小委員会後の追加の御意見）</p> <p>取組「ふるさとの緑の景観地」「彩の国みどりの基金」「さいたま緑のトラスト基金」「埼玉県生物多様性保全戦略」「豊かな水と緑を育むNext川の再生」「エネルギーが途絶えないまちづくり」など、固有名詞的な言葉には「」を付けた方が読みやすいのではないか。</p>	<p>御意見のとおり修正します。</p>

③ 第1回環境基本計画小委員会での意見への今後の対応について（未反映事項）

全般	<p>環境が社会や経済のベースであることを理解してもらうため、SDGsウエディングケーキモデルの図を入れてほしい。</p>	<p>冊子化していく中で、今後検討します。</p>
----	---	---------------------------